

8/1～9/30のkWhモニタリング（試行版）の結果について

- 8/1～9/30を対象期間としてkWhモニタリングを実施した結果、現時点で気温上昇リスクを想定した場合でも余力が確保できていることを確認している。
- ただし、猛暑により平均気温が想定以上に上昇する場合や、ベースロード電源の計画外停止等により余力が計画よりも減少する可能性もある。広域機関では顕著に余力減少する事象が発生した場合には改めてモニタリングを実施する。

対象期間		余力(GWh)	余力率(%)
8/1～9/30	基準線	11,202	7.7
	0.5°Cリスク線	10,890	7.5
	1.0°Cリスク線	9,025	6.2

注1: 対象期間開始時の調達計画を前提としたものであり、今後の調達計画の変更等によって在庫が増減する場合がある。

注2: リスク線は気温影響を算定したものであり、電源の計画外停止が生じた場合の影響などは考慮していない。

注3: 基準線及びリスク線の燃料在庫が最小となる日(余力算定対象の日)はそれぞれ異なる。

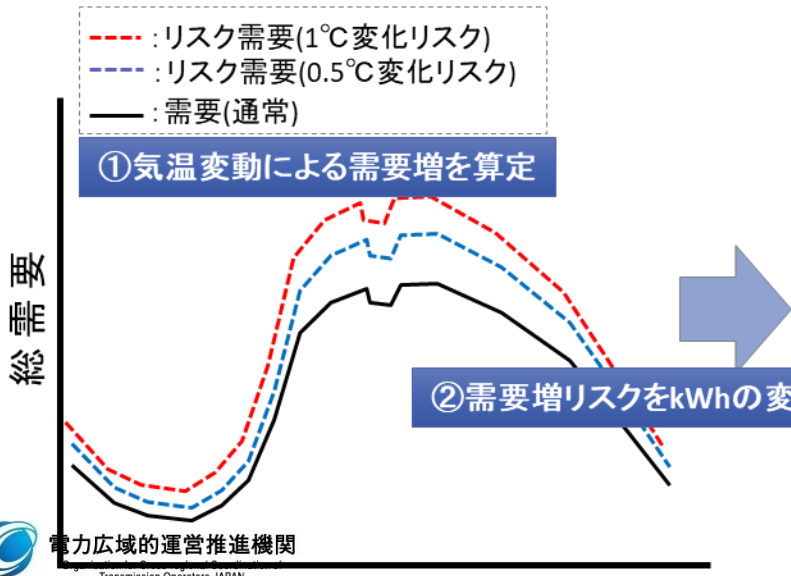
注4: 余力は全国の合計値であり、エリア毎の偏りが大きくなった場合に連系線を通じた電力の融通には限界があることに留意。

- 余力は発電事業者から収集した燃料計画及び運用目標上限値及び下限値を北海道から九州までの合計値から算定。
- 想定需要から気温が0.5℃上昇した場合、及び1.0℃上昇した場合のリスクを想定して最も在庫が低下する場合でもどの程度の余力があるか確認。

<用語の説明>

想定需要: 各一般送配電事業者において想定している需要(各エリアにおける至近10年の気温などを踏まえて想定)
リスク需要: 想定需要に対して、夏季は気温の上昇により増加する需要
運用目標上限: 燃料高在庫リスクを考慮して燃料調達する目安となる上限量の合計値
運用目標下限: 燃料低在庫リスクを考慮して燃料調達する目安となる下限量の合計値
余力: 余力(kWh) = 燃料在庫の最下点(kWh) - 運用目標下限(kWh) (下図イメージ参照)
余力率: 余力率(%) = 余力 / 対象期間の総電力量 × 100

リスク需要(イメージ図)



燃料計画に基づく余力(イメージ図)

